

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870600778		
法人名	有限会社ユニバーサルライフ		
事業所名	グループホーム紅葉		
所在地	神戸市長田区長田天神町2丁目13-15		
自己評価作成日	平成22年5月31日	評価結果市町村受理日	平成22年6月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyou-hyogo.jp/kai_gosi_p/infomationPublic.do?JCD=2870600778&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2丁目2-14-703号
訪問調査日	平成22年6月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員によりその日の気温や旬な食材を活かしての食事作りを一生懸命に取り組んでいます。また入居者様も今までの生活暦を生かして積極的に食事作りに関わって頂き職員にとっても勉強になることが多い毎日です。10月中旬より増築し、6名の入居者様から18名へと拡大します。現在のホームの良いところは残しつつ入居者様が増える事でケアの幅も広げていきたいと思っております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最寄駅(神戸電鉄長田駅)から歩いて数分の住宅地に在り、訪問には便利な場所にある。グループホームの運営に関しては地元の理解が不可欠であるが、地域の方々の理解や協力を多く頂けており、理想のケアに繋がっている。ホームの庭に植えられている「紅葉の樹」を囲み、秋には「紅葉まつり」を開催し、家族や地域の方も多く参加してもらっている。これも、定着した交流行事のひとつである。職員も地域との交流を意識しており、日頃からの挨拶(買い物・散歩時)や地域主催のふれあい喫茶への参加等、地域の一員として馴染みの関係づくりが出来るよう努力している。また、ボランティアの参加(ドッグセラピー・メイク・散歩・日本舞踊・音楽療法等)も豊富で、利用者の楽しみ事への支援も数多く提供がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関ホールに掲示しており、職員が常に意識して取り組めるようにしている。	法人の理念として、「真心・快適・安心」を掲げている。事業所としては独自に「愛ある施設、心ある介護」を目指した取り組みをしている。	地域密着型サービスの提供事業所として、現在実践されている多くの地域交流の標となる独自の理念の追加を検討されては如何でしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板の受け渡しや地域の清掃作業に参加している。月1回のふれあい喫茶には必ず参加している。	下町情緒のある地域で、事業所として積極的に取り組んでいる。もと、地元の役員の方がグループホームに入所しており、地域の人達が訪問する機会にも繋がっている。	現在の地域交流を、職員全体で共有し継続させていく事が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の高齢者やご家族が気軽に相談して頂けるよう管理者、職員は日常多くのコミュニケーションを持つようにしている。またホームには日常管理者がいる為、近隣の方も気軽に足を運んで下さる。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、ホームの活動報告や現状について話し合い、自治会や民生委員、近隣の方々からアドバイスを頂き、サービス向上に努めている。	運営推進会議の開催場所として地元の名倉小学校の福祉コーナーを利用させてもらっている。行政機関の参加が少ないので、今後日程や内容についても検討をする予定である。	運営推進会議の年間テーマを決めるときに、行政側からの情報提供も取り入れてはどうでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業に関する事でわからないところや疑問点があった場合には、その都度相談している。市、町の研修等にはできる限り参加している。	日頃から市町村からの研修情報など、参加できる機会を大切にしている。地域包括支援センターや、消防、警察なども今後連絡体制を整備していく予定である。	
	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が理解しており身体拘束はいかなる場合も行わないケアに取り組んでいる。	玄関を出た所が車道であり、道路交通量も多いため安全上施錠を行っている。特に職員の手薄な時間帯において、安全への配慮を重視している。	心理的拘束や行動拘束に繋がらないように、日頃からの利用者との関係も含め、「拘束」に関して学ぶ機会を大切にしたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や日々のミーティングで資料などを配布し話し合うことにしている。	虐待防止の取り組みについては、職員の相互チェック機能を生かし悩みへの対応等、メンタルヘルスの視点に注意している。職員間のコミュニケーションを高めることを大切にしている。	利用者の尊厳にかかわる部分であり、具体的な事例を取り上げながら、職員同士で学ぶ機会を大切にしたい。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員にはできる限り研修や勉強会等に参加してもらい、またそれを職員全体に伝わるように資料配布やミーティングを行っている。	権利擁護などの研修は、勤務時間以外の時間帯に行っており、具体的な事例を取り上げるようにしている。今後の取組みとして、社協や地域包括との連携も考えている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を用い十分に理解して頂けるよう説明を行っている。また確認の為、重要事項説明書にも署名捺印を頂いている。	重要事項の説明は当然であるが、見学に来てもらった後に家庭訪問をし、受け入れ状況について職員間(含むパート)での会議体を開き、すりあわせを行っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールには苦情・相談箱を設置している。日常では職員と入居者の会話を多く持つようにし、要望や不満などを伺うようにしており、御家族からの意見も日々の業務に反映させるよう努めている。	家族会や面会時のヒアリングを行っている。また、運営推進会議での発言なども取り入れ、ケアプラン作成に活かしている。	家族同士が話し合う機会や、面会時等での家族の意向を大切に、ケアに反映できる様、継続を願いたい。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案がある場合には、その都度管理者に提言できる雰囲気作りをしており、また職員全体でミーティングを行う時に再度話し合うようにしている。	管理者が職員とのミーティングを2ヶ月に1回行ってっており、それをベースに代表者との摺り合わせをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況は把握できている。職員の個性を活かしたレク等をしてもらい、やりがいある職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量を把握し、内外部での様々な研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議には他事業所の管理者に出席して頂いている。長田区専門部会にも参加し、勉強会、相互訪問等の活動を行っている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまで見学や面談の時に利用者本人の思いを受け入れられるよう職員全体で取り組むよう努力している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学から入居に至るまで、御家族の不安を取り除けるよう相談しやすい環境作りに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人がその時必要としている支援について相談があればケアマネージャーも含め話し合う機会を多く持つよう努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人がその人らしい生活をして頂くため職員と入居者は協力し、食事作りや物作りに取り組んでいる。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの行事等にはご家族も参加して頂き、職員とも話す機会を多く持って気軽に気づきや意見をお伺いできるような関係作りに努めている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの近隣の方がいる場合には職員同行にて散歩や地域活動に参加し、思い出話等されている。また近隣の方々にも気軽にホームへお越し下さるよう声かけを行っている。	近隣に住んでいた方が入居されたこともあり、地域の人達が気軽に面会や訪問してくれる関係が出来ている。住宅地の中で、既存の建物を改修して活用しており、地域との挨拶や清掃活動などにも参加している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の個性を職員全体が把握し入居者同士が気持ち良くお付き合いして頂けるよう関わりの持ち方にも工夫している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もその御家族にも「自分の家」と思って頂けるような関係作りに努めている。退所後も御家族の方にはホームでの行事等に参加して頂いている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人と会話する時間を多く持ち、希望や意向を把握できるよう努めている。常に入居者の目線での意向と向き合えるよう努めている。	利用者と会話する時間を多く取れるように努めている。入浴や食事介助の時間など、何気ない会話の中から普段気付かない事もあり、今後は記録に残すよう工夫していくように考えている。	アセスメントの意義を、職員全体で理解する事が重要です。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際のアセスメントに加え日々の会話や御家族からの情報により、その人らしい生活をして頂けるよう努めている。			
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人に合った一日の過ごし方ができるよう職員全体で話し合い、質のよいサービスが提供できるよう努めている。			
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族、職員がそれぞれの意見を出し、入居者がより良く生活して頂けるようケアマネージャーが意見を反映させた介護計画を作成し実行している。	良いケアプランを作るため、カンファレンスでの確認や見直しを職員全体で行っている。また、家族の意見を反映させることも積極的に行っている。	ケアプランの中に、インフォーマルなサービスも取り入れることも検討されては如何でしょう。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々の状態や様子を個人ファイルへ記録し、情報を共有しながらケアを行っている。また連絡ノートでは職員からの入居者の気づき等を記録し計画の見直しに活用している。			
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活での活性化や他者との交流を図るため関連事業所が行っている他施設への訪問を入居者、御家族に参加して頂いている。			

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員の方に参加して頂いておりホーム行事等ある場合にはボランティアにも積極的に参加してもらっている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応可能なかかりつけ医が月2回往診し、緊急時や休日に具合が悪くなった場合でも往診、または応急の指示をしてくれる。	かかりつけ医による24時間の対応が出来ており、緊急時の対処に関しては安心できる。薬局との連携も出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師に密に情報交換や気づきを相談し、適切な看護を受けれるよう支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には早期退院に向けた情報交換や相談に努め、退院後のケアについても細かく病院側からの指導を頂いている。	具体的な事例としては、市民病院の看護師から、退院後の指導を受ける事が出来たので助かった。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や急変時の対応については、御家族との話し合いの機会を多く持つようにしている。職員全体、かかりつけ医とも方針についての対応を繰り返し話し合っている。	過去に、看取りの実例が1件あり、その後、家族との係わりも継続している。医療面との窓口は管理者が中心となって動いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員には市民救命士などの外部研修に積極的に参加してもらい、またそれを職員全体に伝え急変時の対応の訓練等を行っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内での消火訓練、避難訓練を定期的に行っている。地域の方たちの協力を得られるよう運営推進会議等で災害時の応援を依頼している。	夜間を想定した避難訓練や消火器の取り扱いなども行っている。今後の課題の地域連携については、運営推進会議で協力を依頼していく予定。	今後、地域との連携をする上で、ホームの室内プランや入居者状況などの情報を開示する準備も検討願いたい。

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員に対しては面接の時点から、押し付けない介護や個人情報の説明をしており対応には十分注意している。	採用時における個人情報の保護に関する誓約書を貰っており、今後、具体的な事例を用い言葉遣いや個人情報の保護について、職員への説明を行うよう検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り入居者の方が希望や要望を自然に表せるような声かけ、雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に基づき「自分の家」としての生活をして頂くため「強制しない」「介護しすぎない」を心がけ日々支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際やその日の気分でお化粧されたりおしゃれをされたりしている。御本人の希望により地域の理髪店や美容院へも行けるよう支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に和気あいあいと食事作りや後片付けができています。その日の気候や旬をいかした食事ができるよう心がけている。	食事の準備、配膳の手伝いや片付けなど、出来ることに参加してもらっている。献立なども利用者の意見を聴きながら、和気あいあいと行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の毎食の摂取量、1日のトータルの水分量を日々記録し、管理している。また糖尿病やアレルギーがある方にはごはん量を調節したり食事に気をつけたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいを実施している。就寝時義歯がある方は洗浄し、ポリドントにつけている。また訪問歯科により口腔指導や治療をうけている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表やお一人お一人の状況に合わせた排泄の支援を行っている。	排泄のチェックリストにより、日々の記録から状況を判断して支援を行っている。日常の仕草から、声掛などもしている。	外出後や入浴後など、給水のタイミングを考慮した支援にも配慮することも検討願いたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため毎日のラジオ体操と散歩をするようにしており、十分な水分補給にも気をつけている。医師の指示により薬を服用されている方もおり、その際の服薬確認を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には一日おきの入浴をしている。入浴時はお一人お一人のペースを大切に、ゆったりと入浴して頂けるよう支援している。	入浴は、平日に限らず土日でも可能であり、午前中に利用される方が多い。季節湯のイベントや、入浴中の声かけなど、入浴を楽しむ取り組みがされている。	入浴中の会話からも、アセスメントが出来るので記録に期待をしたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間などは特に設けず個々のリズムに応じ安眠、休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人の服用されている薬の種類と目的用法、用量を全ての職員が理解できるよう掲示してある。服薬されるまでの見守り確認、症状の変化の確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力や生活歴に応じた家事や家庭菜園、レクリエーションに積極的に参加して頂いている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ毎日の散歩を行うようにしている。その際、神社への参拝や買い物などで地域の方達とのふれあいも持って頂いている。また御家族の面会時には一緒に散歩へ行って頂いている。	地元の長田神社への参拝や散歩等、地域の方々にも見守りやコミュニケーションの機会を提供してもらっている。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方には買い物へ職員が同行する等の支援を行っている。また御自分でお支払いされ職員によりおつりの確認をおこなっている		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望があればいつでも電話をかけるよう職員が対応している。年賀状、暑中見舞いのハガキを御自身で作られ御家族へ送付されている。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングではお一人お一人がゆったりと過ごして頂いている。近辺が住宅地なので騒音等はなく静かで気候の良い時はテラスで日光浴や食事をして頂いている。	既存住宅の広いベランダを使い、花や紅葉の樹が植えられている。紅葉の樹は、グループホームの名前の由来にもなっている。	小さな段差が多いため、普段からの見守りや声掛けが重要である。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには全員が座れるソファを設置しており思い思いに過ごして頂いている。気の合う入居者同士や職員と談笑されている事が多い。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にて使用される家具等は馴染みのある物を持ってきて頂き使い慣れた物の中で、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	一般住宅を改修して作られているため、多少不自由な面はあるが、住み慣れた空間を意識でき好ましい。各室に空調があり、TVなどの持ち込みも自由に出来る。全盲の方も入居されており、安全面での配慮がされている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一戸建ての民家なので二階の居室の方は階段の昇降が必要となるが日々のよいリハビリにつながっている。廊下、階段、浴室、トイレには全て手すりを設置し、できる限り自立した生活が送れるよう工夫している。		